



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成15年6月調査分)

景気の現状判断DI

	平成15年3月	平成15年6月	前回調査比
茨城県	38.2	43.0	+4.8
県北地域	30.1	40.8	+10.7
県央地域	39.1	40.5	+1.4
鹿行地域	39.5	41.8	+2.3
県南地域	40.7	45.5	+4.8
県西地域	41.4	46.8	+5.4

景気の先行き判断DI

	平成15年3月	平成15年6月	前回調査比
茨城県	34.8	45.4	+10.6
県北地域	28.7	42.9	+14.2
県央地域	36.8	42.7	+5.9
鹿行地域	33.0	45.9	+12.9
県南地域	35.2	43.6	+8.4
県西地域	39.7	51.8	+12.1

平成15年7月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/joho/index.htm>

目 次

調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 全県の動向	4
(1) 景気の現状判断D I	4
(2) 景気の先行き判断D I	4
2 地域別の動向	5
(1) 景気の現状判断D I	5
(2) 景気の先行き判断D I	7
3 回答率	9
景気の判断理由	10
1 景気の現状判断理由	10
2 景気の先行き判断理由	16
3 その他の意見	21

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人たちから、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、那珂郡、久慈郡、多賀郡
県央地域	水戸市、笠間市、東茨城郡、西茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、鹿島郡、行方郡
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷郡、新治郡、筑波郡、北相馬郡
県西地域	古河市、下館市、結城市、下妻市、水海道市、岩井市、真壁郡、結城郡、猿島郡

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	体	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等			38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業(食料品、一般機械器具等)、建設業、金融業等			17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等			5	5	5	5	5	25
		計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見(自由回答)

4 調査月及び調査期間等

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回であり、調査期日は概ね調査月の15日から25日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断D I

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは、「悪くなっている」・「やや悪くなっている」が減少し、「変わらない」・「やや良くなっている」が増加したため、4.8ポイント増の43.0となったものの、引続き横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが3月調査分を上回った。

表1-1 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月
合計		21.9	38.5	38.2	43.0
家計動向関連	家計動向関連	20.8	36.3	35.1	41.9
	小売関連	23.5	30.4	34.0	43.0
	飲食関連	8.8	44.4	31.9	34.7
	サービス関連	20.5	40.9	35.8	42.3
	住宅関連	25.0	10.0	39.3	44.4
企業動向関連	企業動向関連	23.2	41.5	42.8	44.3
	農林水産業	21.9	43.8	46.4	53.6
	製造業	25.0	46.6	44.0	45.1
	非製造業	20.7	33.3	39.8	40.8
雇用関連		26.1	43.5	45.5	47.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.7%	15.5%	39.6%	39.2%
平成14年12月	3.3%	14.7%	32.6%	31.5%	17.9%
平成15年3月	2.2%	11.8%	36.2%	36.2%	13.7%
平成15年6月	1.4%	18.6%	40.7%	29.3%	10.0%

(2) 景気の先行き判断D I

3か月先の景気の先行き判断D Iは「悪くなっている」・「やや悪くなっている」の回答構成比がともに10%以上減少したため、10.6ポイント増の45.4となったものの、引続き横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが3月調査分を上回った。

表1-3 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月
合計		41.2	34.9	34.8	45.4
家計動向関連	家計動向関連	40.8	34.1	33.4	44.2
	小売関連	40.8	32.7	33.2	41.4
	飲食関連	30.9	34.7	33.3	44.4
	サービス関連	42.8	35.6	33.9	45.4
	住宅関連	40.6	25.0	28.6	52.8
企業動向関連	企業動向関連	42.7	35.4	35.9	47.3
	農林水産業	34.4	40.6	39.3	57.1
	製造業	44.0	37.5	35.3	47.3
	非製造業	42.9	30.8	36.1	45.0
雇用関連		39.1	39.1	40.9	47.0

表 1 - 4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	1.1%	8.9%	53.9%	26.2%	9.9%
平成14年12月	1.1%	7.3%	40.3%	32.6%	18.7%
平成15年3月	0.4%	10.0%	35.8%	36.2%	17.7%
平成15年6月	0.4%	16.1%	54.3%	23.2%	6.1%

2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断D I

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは40.8であり、3月調査分と比べて10.7ポイント上回り、上昇幅が全県を通じて最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iが3月調査分を上回ったものの、雇用関連D Iが3月調査分を下回った。

表 2 - 1 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月
合計		18.0	30.3	30.1	40.8
家計動向関連		18.6	28.6	24.3	40.1
企業動向関連		13.2	30.9	39.1	42.6
雇用関連		30.0	40.0	43.8	40.0

表 2 - 2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	3.5%	12.3%	36.8%	47.4%
平成14年12月	0.0%	8.8%	33.3%	28.1%	29.8%
平成15年3月	1.9%	1.9%	37.0%	33.3%	25.9%
平成15年6月	3.3%	11.7%	43.3%	28.3%	13.3%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは40.5であり、3月調査分と比べて1.4ポイント上回ったが、上昇幅が全県を通じて最も小さかった。業種別にみても、家計動向関連D I及び雇用関連D Iが3月調査分と比べて上回ったが、企業動向関連D Iは3月調査分と比べて下回った。

表 2 - 3 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月
合計		24.6	40.6	39.1	40.5
家計動向関連		24.3	40.3	36.1	38.6
企業動向関連		25.0	42.2	46.7	43.3
雇用関連		25.0	37.5	37.5	45.0

表 2 - 4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.4%	17.9%	46.4%	30.4%
平成14年12月	3.6%	17.9%	30.4%	33.9%	14.3%
平成15年3月	3.6%	12.7%	34.5%	34.5%	14.5%
平成15年6月	0.0%	14.5%	43.6%	30.9%	10.9%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは41.8であり、3月調査分と比べて2.3ポイント上回った。業種別にみても、企業動向関連DIが横這いを表す50となり3月調査分と比べて上回ったが、家計動向関連DIは3月調査分と比べて下回った。なお、雇用関連DIは12月及び3月調査分と同じであった。

表 2 - 5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月
合計		22.3	38.4	39.5	41.8
家計動向関連		22.2	33.3	40.3	38.6
企業動向関連		23.3	48.4	37.5	50.0
雇用関連		18.8	40.0	40.0	40.0

表 2 - 6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.5%	16.4%	40.0%	38.2%
平成14年12月	3.7%	13.0%	37.0%	25.9%	20.4%
平成15年3月	2.0%	10.0%	40.0%	40.0%	8.0%
平成15年6月	1.8%	16.4%	41.8%	27.3%	12.7%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは45.5であり、3月調査分と比べて4.8ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連DI及び雇用関連DIが3月調査分を上回り、家計動向関連DIは横這いを表す50を上回った。一方、企業動向関連DIは3月調査分と比べて下回った。

表 2 - 7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月
合計		24.6	40.1	40.7	45.5
家計動向関連		22.1	40.2	40.4	50.8
企業動向関連		30.9	42.2	40.6	33.8
雇用関連		20.0	31.3	43.8	50.0

表 2 - 8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.3%	19.3%	43.9%	31.6%
平成14年12月	7.5%	13.2%	28.3%	34.0%	17.0%
平成15年3月	3.7%	16.7%	29.6%	38.9%	11.1%
平成15年6月	1.8%	23.6%	36.4%	30.9%	7.3%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは46.8であり、3月調査分と比べて5.4ポイント上回り、D I値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iは3月調査分と比べて上回り、企業動向関連D Iは横這いを表す50を上回った。なお、雇用関連D Iは3月調査分と同じであり、引続き50を上回った。

表2 - 9 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月
合計		20.3	43.4	41.4	46.8
家計動向関連		16.4	39.5	34.6	41.9
企業動向関連		23.6	44.1	48.7	51.3
雇用関連		35.0	65.0	60.0	60.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	8.6%	12.1%	31.0%	48.3%
平成14年12月	1.9%	20.8%	34.0%	35.8%	7.5%
平成15年3月	0.0%	17.2%	39.7%	34.5%	8.6%
平成15年6月	0.0%	27.3%	38.2%	29.1%	5.5%

(2) 景気の先行き判断D I

県北地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは42.9であり、3月調査分と比べて14.2ポイント上回り、上昇幅が全県を通じて最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが3月調査分を上回り、企業動向関連D Iは横這いを表す50を上回った。

表2 - 11 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月
合計		33.8	31.6	28.7	42.9
家計動向関連		35.7	27.1	25.0	38.8
企業動向関連		30.9	38.2	35.9	51.5
雇用関連		30.0	40.0	31.3	45.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	7.0%	36.8%	40.4%	15.8%
平成14年12月	1.8%	1.8%	38.6%	36.8%	21.1%
平成15年3月	0.0%	3.7%	33.3%	37.0%	25.9%
平成15年6月	0.0%	13.3%	53.3%	25.0%	8.3%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは42.7であり、3月調査分と比べて5.9ポイント上回ったが、上昇幅が全県を通じて最も小さかった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが3月調査分を上回った。

表2-13 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月
合計		41.8	38.8	36.8	42.7
	家計動向関連	41.7	39.6	35.4	40.7
	企業動向関連	46.7	42.2	41.7	46.7
	雇用関連	25.0	18.8	31.3	45.0

表2-14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	7.3%	60.0%	25.5%	7.3%
平成14年12月	0.0%	12.5%	42.9%	32.1%	12.5%
平成15年3月	0.0%	9.1%	43.6%	32.7%	14.5%
平成15年6月	0.0%	12.7%	56.4%	20.0%	10.9%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは45.9であり、3月調査分と比べて12.9ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iが3月調査分と比べて上回った。なお、雇用関連D Iは、12月及び3月調査分と同じであった。

表2-15 景気の先行き判断D I

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月	平成15年 3月	平成15年 6月
合計		42.3	35.2	33.0	45.9
	家計動向関連	45.1	33.3	29.8	45.7
	企業動向関連	36.7	35.9	35.7	46.7
	雇用関連	37.5	45.0	45.0	45.0

表2-16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	9.1%	60.0%	21.8%	9.1%
平成14年12月	0.0%	11.1%	40.7%	25.9%	22.2%
平成15年3月	0.0%	12.0%	30.0%	36.0%	22.0%
平成15年6月	0.0%	18.2%	50.9%	27.3%	3.6%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断D Iは43.6であり、3月調査分と比べて8.4ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが3月調査分と比べて上回った。

表 2 - 1 7 景気の先行き判断 D I

分野	調査日時	平成 1 4 年 9 月 (試行分)	平成 1 4 年 1 2 月	平成 1 5 年 3 月	平成 1 5 年 6 月
合 計		46.5	34.0	35.2	43.6
	家計動向関連	42.1	37.1	39.0	45.5
	企業動向関連	54.4	28.1	26.6	39.7
	雇用関連	50.0	31.3	37.5	45.0

表 2 - 1 8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 9 月 (試行分)	5.3%	12.3%	52.6%	22.8%	7.0%
平成 1 4 年 1 2 月	0.0%	5.7%	43.4%	32.1%	18.9%
平成 1 5 年 3 月	1.9%	13.0%	27.8%	38.9%	18.5%
平成 1 5 年 6 月	0.0%	9.1%	63.6%	20.0%	7.3%

県西地域

3 か月先の景気の先行き判断 D I は 51.8 であり、3 月調査分と比べて 12.1 ポイント上回り、D I 値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、家計動向関連 D I 及び企業動向関連 D I が 3 月調査分と比べて上回り、雇用関連 D I は 12 月及び 3 月調査分と同じであった。なお、全ての D I が横這いを表す 50 を上回った。

表 2 - 1 9 景気の先行き判断 D I

分野	調査日時	平成 1 4 年 9 月 (試行分)	平成 1 4 年 1 2 月	平成 1 5 年 3 月	平成 1 5 年 6 月
合 計		41.8	34.9	39.7	51.8
	家計動向関連	39.3	33.1	37.5	51.6
	企業動向関連	44.4	32.4	39.5	51.3
	雇用関連	50.0	55.0	55.0	55.0

表 2 - 2 0 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成 1 4 年 9 月 (試行分)	0.0%	8.6%	60.3%	20.7%	10.3%
平成 1 4 年 1 2 月	3.8%	5.7%	35.8%	35.8%	18.9%
平成 1 5 年 3 月	0.0%	12.1%	43.1%	36.2%	8.6%
平成 1 5 年 6 月	1.8%	27.3%	47.3%	23.6%	0.0%

3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	280 人	93.3%
県北地域	60 人	60 人	100.0%
県央地域	60 人	55 人	91.7%
鹿行地域	60 人	55 人	91.7%
県南地域	60 人	55 人	91.7%
県西地域	60 人	55 人	91.7%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	家計関連	パチンコ店	営業数値が好転している。	
		クリーニング店	4月から6月は特に忙しい時期であり、3月に比べれば改善している。しかし例年に比べると売上げは落ちている。	
やや良くなっている	家計関連	衣料品専門店	夏のボーナスが支給され、一時的であるが売上げが上昇した。	
		家電販売店	ボーナスが支給され、消費者の購買力が上向いている。	
		卸売業(衣料品)	夏物商品が終わり秋物商品の展示が始まっているが、単価が上昇している。また、安い商品より高級品が売れてきている。	
		レストラン	当店で実施したイベントの影響で好調である。客は何もしなければ来てくれない。	
		タクシー運転手	5月から6月にかけて気候が暖かくなるにつれ、ゴルフ・観光等での利用が増えている。	
		ドライブイン	多少高くても品質の良い商品を買求める客が増えている。	
	雇用関連	人材派遣業	以前と比べて求人数が減っているが、少しずつ求職者が職を見つけているためと思われる。	
変わらない	家計関連	小売業(酒類)	例年民間企業のボーナス支給後は、街に活気があったが、ボーナスの使い道が決まっているようで、街に活気がない。また、飲食業関係の客足が落ちており、グループによる宴会も少ない。	
		居酒屋	3月と比べて売上水準に変化はない。	
		割烹料理店	前年度の売上げと大きな変動はないが、イベントの回数や新企画を行って売上げを保っている状態である。	
		観光型ホテル	事業収支に大きな変化はみられない。	
		旅行代理店	観光地・観光施設・ホテル・旅館等の状況から、消費が依然として低迷しているように思われる。また、海外旅行についてもSARSの影響が大きかった一時ほどではないが、消極的である。	
		タクシー運転手	ボーナスが支給されても、売上げが上昇しない。また、電車を利用している人は、自家用車で駅まで迎えに来てもらう人が多い。	
		ゴルフ場	依然として、入場者数が少ない。また、料金も安く好転する兆しがみられない。	
		住宅販売会社	3か月前と比べて、住宅を購入する人の数に変化はない。	
		企業関連	林業関係者	木材価格が横這いの状況である。
			製造業(食品)	デフレによる販売単価の下落が続いている。売上高は5か月連続前年同月比でマイナスが続いている。
	製造業(電気機械器具)		受注量が横這いで推移している。	
	製造業(電気機械器具)		受注量・仕事量ともに大きな変化はない。	
	製造業(電気機械器具)		景気が良くなる要因がない。同業者の話も聞いても同じことを言っている。	
	製造業(輸送用機械器具)		受注量が横這いである。	
	非製造業(金融業)		製造業・建設業・運送業等主要業種の売上げが伸びず、単価も依然として下落傾向にあり、上昇の気配がない。	
	非製造業(不動産業)		宅地販売は少し動き出しているが、地域は限定されている。取引の単価は相変わらず減少傾向が続いている。	
	非製造業(情報処理サービス)		特に大きな商談もなく、また、客の予算が激減しているわけでもないため。	
	雇用関連		雇用相談員	相変わらず、訪問した各事業所(中小企業で従業員10名前後)の経営者は、仕事量の減少の悩みを漏らしている。
	やや悪くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	客の買上点数が減少している。
			コンビニエンスストア	客の買上点数・買上金額の減少及び謝恩品の売上げの推移より判断した。より堅実に無駄なくという傾向が強くなっている。
農産物直売所			売上金額にそれほど変化はないが、客単価が減少しており、必要以外の商品は買い控えているように思われる。	
小売業(靴製品)			客は試供品には反応するが、買物には消極的で、必要な物以外購入しない。	
スナック			飲食にお金を回す余裕がない。	
観光型ホテル			売上げが前年同期比で90%と伸びていない。	
観光型ホテル			客数は前年水準を確保しているものの、低価格志向にあり、売上げについては前年を10%程度下回っている。	
タクシー運転手			原子力関係の仕事が減っているのではないかと。	
タクシー運転手			夜の利用者が少ない。また、代行などに客を奪われている。	
レジャー施設			売上げが前年同月と比べて下回っている状況が止まらない。	
レジャー施設		ここ数か月間、前年の売上げと比較して1割前後減少している。		
企業関連		理・美容店	近所の商店・中小工場が閉店・閉鎖している。	
		水産業関係者	水産加工業に対する金融機関の融資が厳しくなっており、また、魚価が不安定になっており値上りが見込めないことから、市場の支払いの遅延が多く発生している。	
		非製造業(建設業)	新年度ということもあるが、公共事業の発注量が少ない。また、民間企業においては、設備投資の計画はあっても実施を見合わせている。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	企業関連	非製造業（建設業）	需要・受注が少なくなっている。
	雇用関連	公共職業安定所	管轄地域の4月の有効求職者が過去最高となり、5月の有効求人倍率も平成11年6月以来の低い数値となった。
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	来街者が極めて減少している。ボーナスをあてにした消費活動がまったくない。
		スーパー	目玉商品しか売れず、衝動買いは以前に比べてほとんどない。
		スーパー	客数は昨年並みであるが、客単価が急激に減少しており、売上げが減少した。他企業も同じ傾向にあるが、1袋あたりの販売数量を減らしている。（キュウリ4本売り 1本売りへ）ギフトの問い合わせが昨年と比べてかなり減少している。
	ガソリンスタンド	需要が減退しており、仕入価格に対して、販売価格を上乗せできない。	
	企業関連	製造業（電気機械器具）	売上高が約10%減少した。
雇用関連	学校就業関係者	企業の求人申込み数が減少している。また、近隣の事業所の受注量が減少している。	

(2) 県央地域

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	新学期関連商品の売上げが好調なため。（スポーツ業界では4月から6月が1年間の中で売上げがピーク）	
		百貨店、総合スーパー	売上げ、人の流れなど全体的に上昇傾向にある。	
		百貨店、総合スーパー	大型店舗の閉店による影響があった。また、顧客は、はじめから買う商品を決めて購入する傾向にあるので、これらのニーズをとらえた商品は好調である。	
		タクシー運転手	3月期と比較して気候も良いためか、利用客が増加している。	
		理・美容店	新メニューにより、新規の客が増加したため。	
		住宅販売会社	今年12月までに入居すると住宅ローン減税が10年間受けられることを認知している客が多く、特に土地と同時購入する客が増えている。	
	企業関連	製造業（土石製品）	一時的ではあるが、大きな仕事が入ったため。	
		製造業（一般機械器具）	環境に係る新商品を3月から発売を開始したところ、受注・引合の件数が当初予定していた以上にあり、その影響で他の商品への波及効果も出ている。	
	変わらない	家計関連	スーパー	客数・客単価・商品単価等に上昇の兆候がみられない。
			スーパー	商品単価が極端に下がることはなくなったが、一人当たりの買上点数は減少している。
都市型ホテル			以前と変わらず、個人・会社ともに宴会等の利用で予算を制限している。	
観光型ホテル			SARSだけの影響（風評）とは思われないが、客足は鈍い。	
ドライブイン			観光シーズンに伴い、乗客数は増加したものの、売上げの伸びはみられない。	
ゴルフ場			来場者数及び営業収入の客単価の減少率が3か月前と同程度である。	
パチンコ店			当店のみの売上げは、前年比120%から130%の伸びとなっているが、他の地域内の店ではそれに比例して落ち込んでおり、相対的に変化がない。	
レジャー施設			ヨット・モーターボートの保管の問い合わせが多くなってきたが、季節的要因があると思われる。	
企業関連		建築設計事務所	相変わらず、新規物件の建設が少ない。また、設計も提案型でなければ、仕事は発生しないように思われる。	
		製造業（出版・印刷業）	価格競争が激しく、売上げが伸び悩んでいる。	
		製造業（金属製品）	仕事量が増えない。	
		製造業（一般機械器具）	前回調査に引き続き、昨年と比べて受注量が好調な状態が続いている。	
		非製造業（建設業）	同業他社の倒産等により競争相手が減少する傾向にあり、仕事の話自体はあるが、金額的に受注するのが困難な工事があるなど一進一退の状況である。	
		非製造業（金融業）	依然として、設備投資の需要が少なく、サラリーマン世帯も住宅ローンの申込みに消極的な姿勢が見受けられる。	
雇用関連	非製造業（情報処理サービス）	取引先との商談状況に変化がみられない。		
	人材派遣業	取引先との取引数が伸びる状況になく、現状を維持するのが精一杯である。		
	雇用相談員	企業担当者との面談では、設備投資の意欲はみられるものの、先行き不透明のため慎重姿勢が根強い。		
	公共職業安定所	新規求職者が4か月ぶりに減少したものの、有効求職者は22か月連続増加している。一部の電気機器（携帯・DVD・デジタルカメラ等）が好調なことから、求人申込みがあるものの、よりコスト削減から業務請負・パートへシフトしている等労働条件が低下しており、雇用環境は厳しい状況にある。		
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	市場では、年度末及び新学期が終わり、一息ついており、客の購買意欲も低調ぎみである。	
		スーパー	1人当たりの買上点数が減少している。また、チラシを見て買物をする客が増えており、特売品の売行きが良くなっている。	
		百貨店、総合スーパー	来客数が減少しており、チラシを入れても目玉商品のみ売れる状況である。	
		家電販売店	客単価及び買上点数ともに減少している。	
		自動車販売店	小型車市場は動いているが、高級車の動きは相変わらず鈍い。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計関連	農産物直売所	土曜・日曜の客数が減少している。また、日曜日の交通量が少ない。
		レストラン	4月からのサラリーマンの健康保険の負担割合が高くなったことなどにより、家族連れの客が減少している。
		タクシー運転手	春闘でのベースアップが見送られ、職場仲間との飲食会が減少しているという話を聞く。
		タクシー運転手	これまでは、木曜・金曜・土曜日に利用客が多かったが、ここ3か月間忙しいのは金曜日だけである。
		ドライブイン	旅行会社が企画しても集客率が悪く、3月頃と比較すると旅行者が少ない。また、食事も低価格のメニューを食べる客が多くなっている。
		レジャー施設	施設内の売店やコーヒESHOPの客単価が減少している。
	企業関連	製造業(食品)	売上額がやや減少している。
		製造業(出版・印刷業)	多数の業者間で値引き等の過当競争が日常的に行われており、同じ量の仕事をしていても売上げに反映されない。
		非製造業(輸送業)	単価の下落が新年度に入っても続いている。
		非製造業(広告代理業)	民間企業各社の予算削減が響き、受注が減少している。
雇用関連	求人広告	3月頃と比べて明らかに求人数が減っており、紙面作りに苦労した。これは当社ばかりでなく、他社も同じような傾向がみられた。	
悪くなっている	家計関連	レストラン	レストラン・外食産業で良い話は聞かない。打つ手は出し尽くした感がある。
		旅行代理店	イラク戦争とSARSによる影響のため、8月頃まで海外団体旅行の中止・延期や旅行手控えの状況にあり、各旅行会社とも売上げは大幅に落ち込んでいる。
		タクシー運転手	利用客が少ない。
		観光名所	来客数が減少している。
	企業関連	非製造業(コンサルタント業)	ソフトを取扱った業務の依頼が減少している。

(3) 鹿行地域

回答区分	分野	業種・職種	理由		
良くなっている	家計関連	観光名所職員	観光シーズン真っ只中であり、入館者が一年を通じて最も多い。		
やや良くなっている	家計関連	スーパー	客足が伸び、売上げも対前年比で良くなっているが、利益は薄い。		
		タクシー運転手	あやめまつりの影響で、人出が多い。		
		住宅販売会社	住宅取得控除の影響が多少出ている。20代後半～30代の来場及び契約が多く、40代の建て替え客は減少している。		
		ドライブイン	春は単価の高いイチゴの売上げが好調、現在は1箱3千円のメロンの売上げが好調である。家計に余裕が出てきたのだと思う。		
	企業関連	製造業(食品)	中元等ギフトシーズンによる受注量の増加に加えて、原料購入の条件が良化した。		
		製造業(化学工業)	近隣に大型電化店が開店し、賑わっている。		
		製造業(金属製品)	賞与の金額が増加する予定である。		
		製造業(電気機械器具)	賞与の支給率が10%アップし、社員の顔色も良くなってきた。		
		変わらない	家計関連	商店街代表者	固定客を中心に、何とか維持している状態である。
				商店街代表者	仕事関係者や一般の人との会話から判断すると3か月前と変わらない。
スーパー	買上点数、客単価ともに変化がない。				
コンビニエンスストア	農家の客を中心に客単価が減少し、国道のトラックの通行量が少ない。依然として状況は変わらない。				
コンビニエンスストア	客単価は変わっていないが、買上点数は減少している。				
自動車販売店	ここ数か月、店舗への来客数は同じである。				
小売業(薬品店)	地域内の企業でのリストラや転職が終息し、市場内の景気は沈んだままの状況である。				
小売業(菓子販売店)	客単価が減少し、売上げを維持するのが大変な状況である。また、客は余計な商品を買わない。				
割烹料理店	観光客の入出を期待したが予想より悪かった。				
ゴルフ場	昨年と比べて売上高に変化がない。				
企業関連	農業関係者	不況のため需要が伸びず、生産が過剰気味である。また、輸入品が数多くあり、値段が安い。			
	製造業(窯業・土石製品)	ボーナスは若干増加したが、リストラ等を含めた経営基盤の縮小による一過性のものであり、景気は改善していないと思う。			
	非製造業(住宅設備施工業)	売上高に変化がない。			
	非製造業(保険業)	保険の契約件数が伸びていない。			
雇用関連	人材派遣業	受注件数は増加したが、単価が落ち込んでおり、売上げが上昇しない。			
	公共職業安定所	求人数はわずかに前年を上回っているが、求職者数が減少しない。			
	学校就業関係者	企業の話では現状維持が精一杯で見通しが立たないということである。			
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	売上げが対前年比20%の落ち込みである。		
		スーパー	来客数、客単価、購買点数すべてが減少している。		

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計関連	家電販売店	大型店が出店したため、個人経営店のダメージが大きい。客の買い控えが目立つ。
		タクシー運転手	仕事が少ない。年金のカット、医療費の値上げなど良い事がない
		タクシー運転手	売上げが日を追うごとに減少している。また、ショッピングセンター等の駐車場を見ても、以前は毎日満車の状態であったが、今はほとんどそのような状態にならない。
		洋食食堂	前期（3・4月）に比べれば売上げが減少している。
		パチンコ店	夕方からの仕事帰りのサラリーマンの客が少なくなっている。
		理・美容店	来客数の増加する時期になっても今年は少なかった。男性は自宅で整髪しているようだ。
		住宅販売会社	住宅取得を計画する人が少ない。
	企業関連	製造業（印刷業）	官公庁が新年度の予算に基づく発注に切り替わり、昨年度より厳しい状況になっている。
		製造業（飼料製造）	物量的には大きな変化はないが、消費低迷による影響が徐々にみられるようになってきた。
		非製造業（金融業）	勤労者の賞与カット及びリストラ等が増加しているため、個人消費が依然として低迷しており、業種を問わず売上げが減少している。建設業は、公共工事の抑制及び民間企業が設備投資を控えている影響で、受注工事が軒並み減少しており、工事代金の入金状況も遅延気味で、資金繰りが厳しくなっている。
雇用関連	民間職業紹介業	企業からの求人は増えていないが、求職者は増加傾向にある。	
	雇用相談員	業種に関係なく求人事業所数が減少している。	
悪くなっている	家計関連	衣料品販売店	必要なものしか購入しないという傾向がより強くなっている。特売品の構成比が高くなっている。
		書店	大型店が出店したため、商店街への来客数が減少した。
		観光型ホテル	前期の週末は、ほとんど満室であったが、今月は空室がある。
		観光型ホテル	利用者の消費単価が減少している。
		タクシー運転手	運転代行業者が増えてきたため。
		レジャー施設	季節的要因もあり学生の客が少ない。
	企業関連	非製造業（輸送業）	受注量が減少しており、受注があっても物量が少ない。料金の値下げ依頼が多い。

（４） 県南地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	農産物直売所	昨年の店舗増築により、売上げが20%増加の状況が続いている。また、客単価も10%増加となっている。
やや良くなっている	家計関連	スーパー	野菜・魚の相場が下がっているが、それ以外の部門については、前年を上回っている状況にある。
		スーパー	客数が増加している。
		家電販売店	暑くなり、エアコンの売行きが好調である。
		自動車販売店	車が壊れても買えないという人が減っている。また、車の買い替えをがまんしていた人が、買い替えている。
		小売業（各種食料品）	気温が上昇するにつれて、ソフトドリンク・アイスクリームなどが売れ出した。また、たばこが増税となるため、まとめ買いが増加した。
		洋食食堂	ランチタイムの客数はほとんど変わらないが、夜の部の予約が増加している。
		旅行代理店	3月はイラク戦争、4月はSARSの影響で海外旅行が極端に減少したが、現在はその時に比べれば若干良くなっている。（海外旅行の申込みが5月までは前年比30%であったが、6月は80%まで回復している）
		理・美容店	3か月前と比べると暖かくなったので、カット・カラーの客が増えている。
		企業関連	農業関係者
	変わらない	家計関連	公共職業安定所
スーパー			1人当たりの買物時間及び客単価ともに変わらない。
寿司店			アルコールの消費量は少ないままで、客は不況に慣れてきている。
都市型ホテル			イラク戦争やSARSの影響により、海外からの団体等のキャンセルがあったが、6月になるとキャンセルもなくなり、3か月前の状態に戻った。
タクシー運転手			売上げが3か月前と変わらない。また、客から景気の良い話は聞かれない。
レジャー施設			客数・客単価ともに横這いである。
住宅販売会社			展示場の来場状況に特に変化はみられない。子供向けのイベントを開催する時のみ来場者数が多くなる。
企業関連		製造業（食品）	依然として低調なまま、良くも悪くもなっていない状況である。
		製造業（一般機械器具）	収益は伸びているが、仕事量に大きな変化はない。
		非製造業（建築設備業）	多少受注は増えているが、利幅は少ないため良くなっているとはいえない。
非製造業（輸送業）	貨物の種類によって動きは違うが、全体としては以前とあまり変わらない。		

回答区分	分野	業種・職種	理由	
変わらない	企業関連	非製造業(不動産業)	取引件数に変化はないが、業者間の格差は広がっている。	
		非製造業(金融業)	各業種ともに売上げの増加はみられない。	
	雇用関連	人材派遣業	新規受注により人員を増やす企業があるが、一方では、工場統廃合による人員減とする企業もあり、総合的には増減が相殺されている。	
		求人広告	自動車修理・板金業は前年度に比べて求人数が少ない。コンビニエンスストアは店舗・人員を調整中で求人数は少ない。6月中旬からは、夏に備えての求人数が増えつつある。	
やや悪くなっている	家計関連	学校就業関係者	求人状況からみて3か月前と特に変わりはないが、製造業の求人が少ない。	
		スーパー	売上高が前年割れの状況が2か月続いている。	
		衣料品・身の回り品販売店	3月は学生衣料や彼岸の贈り物の売上げがあったが、6月の売上げは低調である。	
		ガソリンスタンド	価格変動が激しく、客に不信感を与えている。また、ガソリンの仕切価格は値取りができず、利益が出ていない状況である。	
		洋食食堂	季節的に売上げが落ち込む時期であるが、景気が悪いと外食は一番抑制しやすい部門なので、他の飲食店も暇になっていると言う。	
		和食食堂	5月ゴールデンウィーク明けより、特別行事(父の日など)の日以外は、客数が減少している。	
		タクシー運転手	営業回数が減少している。特に病院の玄関先に待機している場合、以前と比べてマイカーを利用しての送迎が多い等によりタクシーの利用客が減少している。	
		タクシー運転手	JR駅構内で営業しているが、約2時間に1回しか客が来ない。	
		タクシー運転手	1日の電話受けの回数が減少している。また、各企業ともタクシーの利用を制限しているようである。	
		タクシー運転手	売上げが若干減少している。	
	企業関連	製造業(食品)	3月下旬から4月上旬は進学や異動によるギフト用品の販売があったが、6月は中元ギフト前の買い控え状況にある。	
		製造業(食品)	売上高が前年比5%程度マイナスとなっている。	
		製造業(食品)	5月に酒類の増税があり、消費が落ちている。	
		製造業(窯業・土石製品)	デフレ傾向が強まっている。	
雇用関連	非製造業(建設業)	受注量の減少に加えて受注価格も低下している。また、周りを見回すと空きテナントが多くみられる。		
	雇用相談員	求人については補充が主で、増員はみられない。また、土木・建築関係は受注が少ない状態が続いている。運送業界でも荷動きに変化はみられず、その他業種についても、受注・売上げは若干減少または横這いの状態が続いている。		
	悪くなっている	企業関連	製造業(コンクリート製造業)	公共事業が3月末で終了となり、新年度予算が6月以降となるため。
		非製造業(建設業)	新築工事は競争が激しく、営繕工事のみで、25%から30%減少している。	
非製造業(建設業)		昨年秋口より新築物件の受注がほとんどない状況が現在も続いている。リフォーム工事やメンテナンス工事でなんとか凌いでいる状況である。		

(5) 県西地域

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	売上げ・客単価ともに、やや良くなっている。
		家電販売店	暑さにより、エアコンなど季節商品の売上げが上昇した。
		ドライブイン	客の出入りが多くなっている。客単価は下がっているが、数でこなしている。
		レジャー施設	前年同月と比較して、客数が増加している。
	企業関連	クリーニング店	6月に入って暖かい日が続く、冬物のクリーニングに動きがあった。長続きはしていない。
		農業関係者	安全・安心志向により輸入農作物が減少し、国内産の価格・消費ともに上昇傾向にある。
		製造業(金属製品)	受注が途切れない状態にある。また、仕入先・外注先でも仕事がなくて困っているという話は少なくなっている。
		製造業(輸送用機械)	正社員採用はないが、求人は増えている。
		非製造業(倉庫業)	入庫出庫が多く、荷物が動いている。
		非製造業(不動産業)	法人の取引が活発化してきた。昨年の同時期に比べて、売買の取引事例が増加傾向にある。
変わらない	雇用関連	求人広告	求人数が増加している。
		公共職業安定所	新規求人数は増加し新規求職者は減少傾向で推移している。また、雇用保険資格喪失者のうち解雇者が減少しており、受給資格決定件数も減少している。
		家計関連	衣料品専門店
		ドライブイン	売上げや利用者数は前年同時期と比較してほぼ横這いである。部門別にみると、農作物類の売上げは伸びているが、外食部門の売上げが前年割れとなっている。
		ゴルフ場	前年同期比でみると来場者はほぼ横這いである。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	住宅販売会社	住宅ローン減税による年内入居希望の客は少なからずいるが、減税に関係なく購入を悩んでいる客も多い。
		企業関連	農業関係者
	製造業（食品）	春先に投入した新製品の売上げは今ひとつ伸びていないが、既存製品の売上げでカバーしている。	
	製造業（木材業）	受注量が増加せず、変化がみられない。	
	非製造業（建設業）	少しは見積り依頼が増したが、大勢の建設会社と見積りが競合しているため、結果はあまり良くない。需要が増えたのではなく、気軽に見積りを依頼する傾向になっているだけのようなのである。	
	非製造業（金融業）	小売店の売上低迷と土地価格の下落が続いており、悪い状態は変わらない。	
	非製造業（広告業）	例年5月から受注が少なくなるが、今年は企画物があったので、落ち込みを抑えることができた。	
雇用関連	学校就業関係者	6月に入り求人票受付が開始されたが、問合わせ等の反応が鈍く、受付数も伸びない。	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	価格に対して敏感な客（特に45才以下の世帯）が増えている。また、デフレ傾向が止まらず、1品単価の下落が売上低下の大きな要因になっている。
		自動車販売店	大型店舗は客の集客はまずまずであるが、各種小売店は、客の動きが鈍い。また、パート社員が増えているという話が聞かれる。
		ガソリンスタンド	取引先で自己破産の企業が2件あった。また、メーカーの特約店に対する締め付けも強くなり、老舗のガソリンスタンドがメーカーの看板をおろして、プライベート・ブランドの営業を開始した。
		洋食食堂	5月の連休明けから客足が減少している店が多い。
		和食食堂	外食産業全体では、昨年に比べて約6%落ち込んでいる。特に居酒屋関係が落ち込んでいる。
		居酒屋	飲食業をはじめ、建設、建築、加工業など各業種の人と景気の話をするが、不景気の一言で終わってしまう。
		都市型ホテル	一部の業種（半導体関係）は景気が上向いているという話を聞くが、ホテル業界も含め他の業種は下降気味である。
		タクシー運転手	3・4月は歓送迎会による利用が多く、前年度を上回ったが、反動で5・6月は落ち込んでいる。
		タクシー運転手	異動時期と連休も過ぎ、営業マンの動きが少ないように感じる。
		タクシー運転手	3か月前は歓送迎会等により利用客が多かったが、今の時期は例年どおり利用客が少ない。
	建築設計事務所	受注量が減少している。社会不安が大きく建築意欲が薄い。	
	企業関連	製造業（印刷業）	コストダウンが一層厳しくなり、見積りを出しても出した金額より値引きされたり、注文を見合わせるなど、より一層利益率が悪化の傾向に進んでいる。
		製造業（一般機械工業）	同業者の多くが受注量で40%減の状況にあり、ひどいところでは80%減というところもある。
		製造業（電気機械器具）	例年4月から6月は、予算に対して目一杯の動きがあるが、今年はそのような動きがない。
雇用関連	雇用相談員	デフレ進行により、多くの企業は雇用を絞り、正社員採用を減らし、パート・アルバイトを増やす雇用形態に転換している。	
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	客数・客単価ともに10%から15%低下している。
		旅行代理店	SARSの影響で業界全体として最悪である。
	企業関連	製造業（石材業）	石材業界は3月・8月・9月が忙しい月であり、6月は受注が少ない状況にある。

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	小売業（酒類）	天候次第であるが、他県からの海水浴客が期待できる。また、今後は夏祭り等が多く行われる予定であり街の活性化も期待できる。
		卸売業（衣料品）	昨年と比べて単価が上昇しており、海外商品より国内の商品に目を向けている傾向が強くなってきている。また、他人との差別化ができる商品が売れている。
		タクシー運転手	福島原発の運転が再開されれば、仕事が増えると思込んでいる。
	企業関連	水産業関係者	水産研究者の発表によると、夏から冬にかけて小型船（シラス曳網漁）が豊漁になるとの見解が出されている。
		製造業（電気機械器具）	株価が上昇し、金融機関・生命保険・個人投資家が抱えていた不安感が薄れたように感じる。また、夏季賞与が支給され、消費者の購買力が回復すると見込まれる。
		製造業（輸送用機械器具）	3か月先の受注予定表をみると、家電・自動車関係の取引先からの受注数量が多少なりとも増加している。
		非製造業（建設業）	株価が回復傾向にあり、設備投資意欲が高まることが期待できる。
変わらない	家計関連	家電販売店	地元主力企業の景気が上向かないと、地域の活性化が見込めない。
		自動車販売店	販売台数が前年よりも悪化しており、すぐには良くなれないと思われる。
		居酒屋	外食・飲食の回数を増やすと言っている人がいない。
		観光型ホテル	夏休みを控え家族客やグループ客に期待するが、増収はあまり期待できない。消費者の将来への不安が払拭されなければ、今のままの景気が続くと思込される。
		観光型ホテル	予約状況から判断して、3か月後も変化はないと思われる。
		旅行代理店	地元主力企業の景気が上向かないと、景気が良くなると思込ない。
		タクシー運転手	景気が良くなるという話を聞かない。
		住宅販売会社	接する会社の人達は、給料カットが決まったという話が多く、景気が回復するほどの消費が見込めない。
	企業関連	製造業（電気機械器具）	受注量が回復していない。
		製造業（電気機械器具）	3か月先の受注量・仕事量は不透明であり、増加の期待ももてない。
		製造業（輸送用機械器具）	社会保険の負担増など収入の増額より実質支出額が増加しているため。
		非製造業（不動産業）	良くなる要因が見当たらない。地元企業のリストラの話を目にする。
		非製造業（情報処理サービス）	年度末にならないと商談が集中しないため。
	雇用関連	学校就業関係者	近隣の事業所の受注状況を見ると、今後生産量が増加すると思込ない。
		人材派遣業	長期的な仕事が少ないため。
雇用相談員		現時点で仕事のある事業所でも、今後の見通しはたっていないようである。	
やや悪くなっている	家計関連	小売業（土産物）	お土産は、日持ちの良い物や夜のおかずなど本当に必要な物だけの買物になっている。
		割烹料理店	会社関係の客の話聞いても、先の景気が良くなると思込ない。
		タクシー運転手	多数の客が、景気が良くなることはないと言っている。
		タクシー運転手	飲食店関係者の利用が減っており、3か月先も期待できない。
		レジャー施設	たばこ・発泡酒の増税やボーナスの社会保険料アップなど財布のヒモを締める材料ばかりが目につき、良い材料は見当たらない。
		理・美容店	会社等の早期退職者やリストラされた人の働く場所がなくて、遊んでいる人が多い。
	企業関連	製造業（食品）	夏場は例年売上げが減少する。
		非製造業（建設業）	公共事業の減少が建設業ばかりでなくあらゆる業種に悪い影響を与えている。また、単価の破壊によって仕事があっても受注できない今の状況がこの先も続くと思込られる。
悪くなっている	家計関連	求人広告	県内の建設会社が破綻した影響が出てくると思込られる。
		スーパー	商品単価が下がっているにもかかわらず、客の買上点数が減少しており、売上げが激減しているため。
		スーパー	平成15年4月より導入された健康保険・厚生年金の総報酬制の導入による手取額の減少が、消費者の財布のヒモを締めている。
		ガソリンスタンド	下請工場の多い地域であるが、ほとんど仕事がないようである。
		スナック	給料カット・ボーナスカットの状況で、客足が良くなるわけがない。
		クリーニング店	大手チェーン店が進出する予定である。

(2) 県央地域

(- : 回答が存在しない)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	タクシー運転手	よく就職活動中の学生が利用するので話を聞いてみると、少しは景気が良くなっていると言っている。
		レジャー施設	保管料を年払いのみから月払いも可能としたら、支払いが良くなった。
	企業関連	製造業(土石製品)	8月末工期の仕事が集中しており、今後3か月はやや良くなる見込みであるが、それ以降は悪くなる可能性がある。
		製造業(一般機械器具)	食品業界において、食の安全に対する設備投資が増えている。また、石油化学工業界においても、分析装置を購入して、効率生産によるコストダウンに役立てようという動きがある。
変わらない	家計関連	非製造業(広告代理業)	企業努力と夏のボーナス商戦の効果で売上増加が見込まれる。
		商店街代表者	夏のボーナス時期を迎えるが、「出るだけまだまし。」という声が聞かれ、今後厳しさは変わらないと思う。
		百貨店、総合スーパー	顧客が、はじめから買う商品を決めて購入する傾向に変化はない。
		スーパー	消費者の動向を考慮したうえで、商品の配列を変える等目先を変えるための作業を行っているが、あまり効果を得られていない。
		百貨店、総合スーパー	競合店が隣接しているため、低価格の競争になり、売上げにつながらない。
		都市型ホテル	長期にわたる不景気が、わずか3か月で回復するのは難しいと思われる。
		ドライブイン	これからのシーズンは、来客数の増加が見込まれるが、現在の状況から見て、売上げの増加は見込めない。
		ドライブイン	各税金の見直しなどが取り上げられており、消費者は購買を控えている。また、今年度は大きなイベントがない。
		ゴルフ場	予約状況に伸びがみられない。
		理・美容店	新メニューの対象者が一巡するため。
	住宅販売会社	住宅ローン減税政策が延長になるかどうか次第なので、先行きは不透明である。	
	建築設計事務所	株価の上昇が、景気的好転につながって企業の投資に結びつくことを期待している。	
	企業関連	製造業(食品)	株価が上昇しているが、商売に影響がでるのはまだまだ先と思われる。
非製造業(輸送業)		秋・冬物の動きにある程度期待している。	
雇用関連	求人広告	新たな雇用が増えるような所がある訳ではなく、状況に変わりはないと思われる。	
	公共職業安定所	管内の業況調査において、先行きについて好転・やや好転と回答した事業所は4%であり、悪化・やや悪化は51%と半数を占めている。引き続き厳しい状況が続くと思われる。	
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	一企業が努力しても、社会全体の景気が良くならなければ、景気回復はなかなか難しいと思われる。
		スーパー	賃金の控除額が増加しており、可処分所得が減少していることから節約がますます進み、結果として景気は悪くなると思われる。
		自動車販売店	日本経済全体の明るい見通しがたたなければ、市場は伸びないと思う。
		レストラン	株価の変動や金融機関が不安定なため、景気が良くなるとは思えない。
		タクシー運転手	利用客から、業務縮小が進んでおり不安を感じているという声が多い。
		パチンコ店	客単価の高い機械の稼働が低下している。また、競合店では、新装入替をしても客数に変化がみられない。
	企業関連	製造業(出版・印刷業)	過当競争が続き、現在より仕事量が少なくなる可能性がある。
製造業(金属製品)		身の回りで景気の悪い話が多い。	
悪くなっている	家計関連	旅行代理店	旅行需要は引続き手控え状況にある。狂牛病の例もあり、個人客・高齢者の旅行需要が回復するには、なお時間を必要とすると思われる。
		タクシー運転手	リストラ・倒産の話が多い。
	企業関連	非製造業(コンサルタント業)	顧客の積極的な動きがみられない。

(3) 鹿行地域

(- : 回答が存在しない)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	スーパー	悪くなる要素は見当たらず、状況は安定してきている。
		スナック	行楽シーズンを迎え期待がもてる。
		洋食食堂	新メニューの開発等、新しい展開を考えており、スタッフ一同モチベーションを上げ努力している。
		割烹料理店	夏休みを利用した学生等のスポーツ関係の客が多くなると思われる。
		住宅販売会社	ローン金利等が下がっており、若年層を中心とした動きがあると思う。
	企業関連	製造業(食品)	原料購入の条件が更に良くなる見込みである。
		製造業(化学工業)	当社で行われていた給与カットがなくなり、余裕をもてるようになったため。
製造業(金属製品)	業績が回復し、借入金残高が減少することと、ROA(総資産営業利益率)が上昇してくるため。		
製造業(電気機械器具)	同業者と合併したため、様々な効果が現れてくると思う。		

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	商店街代表者	大型店の進出により過当競争が激化しており、開き直った形での商売を行っている。
		スーパー	消費者は、食品の購入をこれ以上削れないと思う。
		スーパー	新商品より、ベーシックな定番商品が売れている。
		観光型ホテル	9月の予約状況をみると、状況が改善するとは思えない。
		観光型ホテル	施設の予約状況に変化がない。
		タクシー運転手	多少周りの景気が良くなっても、すぐにはタクシー業界に反映されない。
		レジャー施設	ボーナス支給や夏休みなど雰囲気の良い時期もあるが、9月は売上げが減少する時期なので変わらないと思う。
		室内装飾業	各家庭の購買力が衰えており、家の修理どころではないと思われる。
		ドライブイン	夏休みも終わり、外出の機会が減る。新米や果物の購入は近場で必要なだけの購入になると思う。
	企業関連	農業関係者	サラリーマンの給料が下がり、買い控えの傾向にある。
		製造業（印刷業）	受注数に変化がみられない。
		製造業（窯業・土石製品）	設備投資の伸び悩みにより景気の回復は不透明である。リストラ効果で平成14年度決算が改善している企業が多いが、企業体質はまだまだ改善が必要だと感じる。
		非製造業（住宅設備施工業）	見積物件の増加がみられない。
		非製造業（輸送業）	夏場の受注がある程度期待できるが、秋以降は排ガス規制等の状況変化による影響が心配。
雇用関連	民間職業紹介業	製造業の動向によっては好転もありえるが、現状から判断すると進展は望めない。	
	公共職業安定所	事業拡大や、まとまった数の雇用者増加の話が聞かない。	
	雇用相談員	事業主から「この景気では仕事も少ないが、これ以上悪くならないだろう」という声が聞こえ始めた。	
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	これから夏場に向かい、必要なものだけの購入にとどまるのではないかと。
		商店街代表者	ボーナスや給料が減額されているところが多い。買い控えと価格破壊が進んできた。
		衣料品販売店	雇用の促進が進んでいない。
		家電販売店	リストラの話や会社の景気が思わしくないという話をよく聞く。
		自動車販売店	ボーナス時期が来ているにもかかわらず、来客数及び見込み客ともに増加しない。
		書店	大型店の影響で、零細企業、個人小売店の売上げ不振が続くと思われる。
		小売業（菓子販売店）	農家の客が多く、話を聞いてみると、物が売れないなどあまり良いことは言わない。
		観光名所職員	シーズンオフになり、入館者が減少する見込みである。
		パチンコ店	客の減少が続いていくと思う。
	企業関連	製造業（窯業・土石製品）	鉄・セメント・消耗品等、さまざまな物品で値上げ要請が来ている。
		製造業（飼料製造）	全体の需要が縮小しており、稼働率維持のために無理な販売を強いられている。
		非製造業（金融業）	りそな銀行の公的資金投入により、株式市場の冷え込みが予想され、企業の倒産・失業の不安があり、ますます消費は冷え込むと思われる。
		非製造業（保険業）	公共建設工事が少なくなっている。
	雇用関連	人材派遣業	引合の件数が減少しており引合の内容も悪くなっている。また、長期業務の契約打ち切りが出てきている。
悪くなっている	家計関連	理・美容店	理容業は夏場忙しくなるのだが、ここ数年はそれがみられなくなってしまった。

(4) 県南地域

(- : 回答が存在しない)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	スーパー	株価が上昇しているため。
		衣料品・身の回り品販売店	9月頃は、秋冬物の衣類の売上げが見込まれる。
		農産物直売所	増築1年を迎えるが、今の見通しでは、微増であるが売上げは伸びそうである。
企業関連	非製造業（輸送業）	売れ筋の貨物は非常に動きが早くなっている。	
変わらない	家計関連	自動車販売店	ボーナスが出ない、あるいはカットされるという話が前回のボーナス時よりも少なくなっている。
		小売業（各種食料品）	まだまだ先行きの不安感が大きく、消費は伸びないと思われる。
		和食食堂	客の動向をみると、良くなる要素が見当たらない。
		都市型ホテル	宿泊は団体等の予約があり、また、宴会・レストランにおいてもサマーフェアの予定があり、ある程度の売上げが見込まれる。
		旅行代理店	SARSは一部の地域に終息宣言が出ているものの、回復は秋口以降になると思われる。若者を中心とした問い合わせは増えてきている。
		タクシー運転手	タクシーの営業回数の増加は現状では考えられない。
		タクシー運転手	長期間にわたる不景気の状況のなかで、3か月の短期間で景気が良くなるとは思われない。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	理・美容店	企業個々の特長を活かし、周囲に問題を押しつけることから脱却しているようである。
		建築設計事務所	周りの取引企業に動きがない。
	企業関連	農業関係者	一部の業種に持ち直しの動きがあるが、農業・土木などは元気がない。
		製造業（食品）	天候も平年並みの予想であり、個人消費は伸びないと思われる。
		製造業（一般機械器具）	欧米の景気が鈍化しているなど、景気回復が見通せない。
	雇用関連	非製造業（建築設備業）	見積り依頼が増えていないので、あまり期待できない。
		人材派遣業	人員増としている企業も2・3か月を目処としているところが多い。
雇用相談員		各事業主に話を聞いてみると、設備投資や増員等を計画していないとのことであり、今後一層悪化すると思われるが、状況が好転する要因も見当たらない。	
	学校就業関係者	企業への求人依頼をしているが（約90社）、回答があったのは約72%であり、昨年と同じ会社である	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	ボーナスに対する社会保険料の増加により、臨時の収入が減少するため、本当に必要なもの以外は購入しないのではないかと。
		スーパー	客単価が低下している。
		スーパー	売上高の移動累計が下降ぎみで推移しており、今後の見通しも暗い。
		洋食食堂	夏場の7月から8月は売上げが上がらない時期であり、今年も9月の中頃まで苦しい状況が続くと思われる。
		都市型ホテル	宴会（周年行事・落成式等）の自粛により法人需要が減少している。また個人においても人件費削減の影響なのかレストランの予約が減少している。
		タクシー運転手	企業のタクシーチケットの利用が減少傾向にある。
	企業関連	製造業（一般印刷業）	印刷業界は、例年夏場になると受注が落ちるが、今年も避けられそうにない。
	非製造業（金融業）	市場の求める商品やサービスが提供されなければ売上げの増加や利益は生まれないことを、企業・事業者が真剣に考えて対応しなければ、業績は良化しない。	
悪くなっている	家計関連	ガソリンスタンド	値取りができない状況が続くと、倒産が増えてくることが予想される。
	企業関連	製造業（食品）	中元ギフトが一段落つき、9月は買い控えになるとと思われる。
		製造業（食品）	売上高が伸び悩んでいることに加えて、商品の低価格化のため。
		非製造業（建設業）	2・3件の引合いがあるが、価格競争が激しく、赤字覚悟で対応しないと受注できない状況にある。

(5) 県西地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	企業関連	農業関係者	輸入農作物の減少により、国内産の価格が上昇している。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	株値上昇により、景気に底打ちの感がある。
		商店街代表者	地域内の企業や農業関係者の景気が良くなりつつあるように見受けられるので、多少なりとも消費支出が増加するのではないかとと思われる。
		洋食食堂	店内の改装を予定しており、その効果で業績が良くなると思われる。
		都市型ホテル	新たなスーパー等が2店出店する予定であり、街に活気が出ると思われる。
		旅行代理店	SARS問題が落ち着き、多少は良くなると思う。
		タクシー運転手	今年度の利用は、前年度を上回っているため、これから先も良くなると思う。
	企業関連	製造業（食品）	製造、販売ともに堅調な数字を残しており、今後の製造、販売にも期待がもてる。
	製造業（石材業）	8月・9月・10月が最も忙しい月であり、現時点よりは受注があると思われる。	
	非製造業（不動産業）	ここ数か月徐々に取引件数が増加しており、今後も続くと思われる。	
変わらない	雇用関連	人材派遣業	例年7月から9月は仕事が増える。
		学校就業関係者	現在よりも求人事業所が増える時期になるので、現状よりは良くなると思われる。
		スーパー	夏季賞与のカットや大幅減の話題が取り上げられており、食費にかける経費が増える見込みがない。
		家電販売店	エアコンのように状況変化により必要品は購入されるが、贅沢品でもあるパソコン等の買い替えがあまり見込めない。
	企業関連	タクシー運転手	街に活気がみられない。
		タクシー運転手	乗車する色々な業種の人から話を聞くが、皆景気は良くないと言っている。
		農業関係者	農産品価格の上昇は、収穫減によるものであり、今後景気が良くなることはあまり期待できない。
	製造業（印刷業）	行政が業者に不必要な競争をさせ、業者も仕事をとりたいため採算を度外視して低価格で見積りを提出している。よって、まだまだデフレは止まらない。	
	製造業（金属製品）	現在の仕事が一段落してしまうと、注文がなくなるのではないかと不安がある。	
	製造業（一般機械工業）	同業者の会合では景気の良くない話ばかりで、仕事がなく金・土・日を休みにしている会社が数社あった。	
	製造業（電気機械器具）	業界の先の見通しについて話がでて、良い兆しの話はない。	
	非製造業（コンサルタント業）	株値が急上昇するなど、何か大きな変化がなければ変わらないと思う。	
	雇用関連	求人広告	これ以上求人数が増える見込みがない。

(- : 回答が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	増税の実施や検討により、消費マインドが落ちている。
		自動車販売店	夏季ボーナスがでない、またはカット等により今後の景気が回復するとは思われない。
		ガソリンスタンド	ガソリンスタンドの安値競争が再燃しており、仕切価格を下回る価格で販売している地区もあり、体力の弱いガソリンスタンドは危機的な状況になってくると思われる。
		和食食堂	社会全体の経済環境が良くならなければ、月3回行った食事は2回、月2回行った食事は1回と減っていく。
		都市型ホテル	例年夏季はビジネス客の動きが悪く、今年に限って良くなるとは思われない。空き店舗の新規開店などで応援部隊の宿泊があることを期待している。
		建築設計事務所	建築基準法が7月1日より改正され建築工事費が上昇することが見込まれており、建設物件が減少すると思われる。
	企業関連	非製造業（建設業）	商店街がシャッター通り化し、活性化がみられない。
		非製造業（広告業）	次の企画物が見つからないと景気は悪化すると思われる。
雇用関連	公共職業安定所	製造業の求人において、一般求人よりパート求人の数が多い。先行きの不透明を感じさせる。	
悪くなっている	-	-	-

3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	ボーナス支給日にも関わらず、銀行は平日の通常業務のようであった。
	スーパー	金銭的理由による大学中途退学者のアルバイトが増加している。
	コンビニエンスストア	公共料金の払込みのみで買物をしない客が増えている。
	コンビニエンスストア	日常的な我慢と裏腹に興味の強いものに対しては抵抗なく行動をおこしているようである。
	衣料品専門店	5月末より大手スーパーが24時間営業を開始した。
	ガソリンスタンド	取引きのある町工場が2か所閉鎖する。土地の動きは殆どが競売物件である。
	小売業(酒類)	衛生管理・価格・味・従業員の接客・店の雰囲気の評価されている飲食店は安定成長している。客の送迎サービスをしている飲食店が増加している。
	卸売業(衣料品)	郊外に多くの個性的なファミリーレストランができています。
	レストラン	飲酒店組合の人とのあいさつが、10年前は、「まあまあだね。」とか「ぼちぼちだね。」と言っていたのが、「大変だね。」とか「困ったね。」になっている。
	スナック	お店を売りたくても売れない状況にあり、仕方なく続けている。
	食堂	貸店舗、駐車場に空きが多い。
	観光型ホテル	客は料金よりも自分が望むもの(美味しいものが食べたい・いい部屋に泊まりたい)を求めている。景気の悪い話をしているのは業者のみである。
	観光型ホテル	現在は消費者が「静」の状態であると考え。旅館・ホテル業に限らず今は「待ち」の姿勢では集客はできない。こちらから企画・提案し、消費者を「動」の状態にもっていく必要がある。要は客のニーズに合った商品を企画しどう提供するかがカギである。
	旅行代理店	価格競争が激化している状況が続いており、働く時間は長くなっているが、収入は変わらない。
	ドライブイン	今が旬なもの、あるいは珍しい商品に興味を示す客が増えている。
	ゴルフ場	客の財布のヒモが堅い。売店・レストランの売上げも減少している。アルコール規制も影響している。
	レジャー施設	客単価が相変わらず低い。
	レジャー施設	夏季ボーナスがカットになった企業が多く、消費単価の減少が続いている。
	理・美容店	客の要望は変化しており、客の要望に応えるという基本が大切であると思う。
	理・美容店	まだまだ、リストラが続くようである。
住宅販売会社	自分のこだわりに関するモノ(事)には、お金をかけている人が多い。	
企業関連	製造業(食品)	学生及び高齢者の失業により失業者の増加がみられる。また、可処分所得の減少により、消費の冷え込みがみられる。
	製造業(電気機械器具)	開店したスーパーが安いという話を聞き買物に行ったところ、うんざりするほど混雑していた。
	製造業(電気機械器具)	高校の進路指導の先生が来社した際、求人について話しをしたが、企業の求人が激減しているとのことである。
	製造業(電気機械器具)	SARS問題により、渡航自粛地域との取引に若干影響がでている。
	非製造業(建設業)	どの職種においても、設備投資ができず、そのため経営が伸び悩んでいるようである。
	非製造業(金融業)	夏の電力不足に対する節電に協力するため、8月の工場稼働を10日前後縮小させる予定がある。地元商店街及び下請業者からは、売上低下を危惧する声があがっている。
非製造業(不動産業)	不動産購入者層の若年化がみられる。100%ローン利用の事例があった。	
雇用関連	学校就業関係者	特定の業種の会社で、受注が増えているところがあるが、他の企業や業種に影響を与えず、一人勝ちになっている傾向がある。
	雇用相談員	デジカメ・携帯電話業界は、常に新製品ラッシュで景気が良さそうに見えるが、その業界の下請企業にしわ寄せがきていて、採算性では苦しんでいる。
	公共職業安定所	来春3月卒業の高校生を対象とした求人受理説明会の通知を947事業所へ通知したところ、58事業所の出席にとどまった。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	年度末の需要期が過ぎて、その当時の仕入れの決済を現在迎えているが、問屋・メーカーなどは不渡りをかなり警戒して情報収集している。
	百貨店、総合スーパー	団塊世代の子供世代(団塊ジュニア)の家族の購買意欲が強い。
	スーパー	色々な店舗を巡回して商品を選ぶ消費者が増加している。
	スーパー	水戸メガモールの出店について様々な人が懸念しており、商圈・客の動向について不安要素が大きい。
	家電販売店	購入に際し、他店との価格を比較する傾向が更に激化している。
	自動車販売店	客との会話の中で、給料は上がらないのに、たばこの増税や消費税見直し等でいくお金が多くなり、不安や先行きを心配する話が多い。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	レストラン	今年のゴールデンウィークは、SARSの影響で需要が伸びると期待したが、リゾート地へ外出するか自宅に在るかに分かれ勝ち負けのはっきりした年だった。
	レストラン	結婚式等の1組当たりの人数が減少している。また、宴会場よりレストランでの披露宴が多くなっている。
	観光型ホテル	売店の売上げが低調である。
	旅行代理店	旅行業を含むサービス業界（旅館・食事・交通関連施設）は、今回のトリプルパンチ（不景気・イラク戦争・SARS）による大幅な収益減収により、過去に経験のない体験を強いられている。大幅な経費の見直しはもちろん、雇用関係にも手を付けざるを得ない状況である。
	タクシー運転手	以前と違って、企業のタクシーチケットの利用が減少している。
	タクシー運転手	デフレで閑散としている商店街を見たり、毎日のように発生する様々な事件を聞くと、この先どうになってしまうのかと不安になる。
	ドライブイン	たばこなどの値上げにより、サラリーマンの昼食代が低下している。また、道路交通法の改正により宴会関係が少なく、アルコール類も減少している。
	ゴルフ場	プレー料金の問合わせが増加している。また、売店利用についても高い商品の購入は見送られている。
	パチンコ店	客の遊技している時間が短くなっている。また、ボーナス時期にもかかわらず、商圏に変化がみられない。
	レジャー施設	イベントを開催したら、参加者が徐々に増加している。
	理・美容店	若い女性はおしゃれに対する関心度が高く、支出を惜しまない。
	理・美容店	理容の1,000円カットの店が遠いところにはあったが、最近近くに開店した。
	住宅販売会社	土地と同時購入ということもあり、建物の予算は以前よりも縮小傾向にある。
建築設計事務所	平成17年開店予定の水戸メガモールの件で、市内の販売店舗で危機意識を持っている。	
企業関連	製造業（一般機械器具）	法律の規制が変更になれば、それに準拠したやり方が求められ、その中で経済活動が生じて景気が良くなることもある。
	非製造業（建設業）	建設工事が途中のまま企業が倒産してしまっているケースがある。このような建設工事は、資金欲しさにダンピングにより受注しているため、金額が厳しく他の企業が受注するのは極めて困難である。
	非製造業（輸送業）	近所で隣接している3軒が同時に住宅建設に着工している。
	非製造業（広告代理業）	失業者（特に高齢者層）が多くみられるようになった。
	非製造業（コンサルタント業）	質を重視している店・企業に元気がみられる。
	非製造業（情報処理サービス）	競合店との見積競合がますます熾烈になっている。
雇用関連	雇用相談員	特に中小企業では、人件費圧縮の一環として正社員よりむしろパートタイムの雇用形態が目立っている。また、正社員の雇用では、営業力を高める営業マンを求めている企業が目立っている。
	求人広告	月末・月初のみの事務職や工場での新製品立ち上げのみなど、短期間の雇用が増えている。
	学校就業担当者	外食、書籍、交際費用を減らすようになった。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	中年以上の女性は高価なものでも気に入ったものであれば購入してくれる。
	商店街代表者	商店街が壊滅的なダメージを受けている。車を運転できない高齢者が自分で買い物ができない状況である。
	スーパー	発泡酒増税前は売上げが伸びたが、それ以降は売れていない。
	スーパー	今年はメロンが高値であるが、ギフトで送るメロンの品質・等級をワンランク下げても前年と同じ予算になるように希望する客が多い。
	コンビニエンスストア	昨夏の農薬問題の影響でメロン農家の不況が起こっている。収穫期を迎えた地域では手伝いに来ている人の数が減っている。
	コンビニエンスストア	客は余計な買物はしないが、情報のついた商品や自分にとって価値のある商品には、いくらでもお金を出している。
	農産物直売所	客が慎重になってきたと感じる。
	衣料品販売店	売れていないためか、同業小売店のチラシ折込み回数が増加傾向にある。
	家電販売店	商品価格が下がり、国内生産では利益が確保できない状況になっているのが気になる。商品価格の値下げ競争が、最終的にはお互いの首を絞めていると感じる。
	自動車販売店	税金の無駄遣いが多いのではないかと話をして店頭に多く聞く。
	書店	家電・衣料品・日用品・生鮮食品の値引、低価格化が多くみられる。また、通信販売の数が増加している。
	スナック	外出しても、あらゆる面でお金を抑える傾向がある。
	観光型ホテル	団体（会社等）の利用客が減少している。
	小売業（菓子販売店）	鹿行地方は、桃の節句や端午の節句を近所の方々を招いて豪華に祝うことで有名であるが、今年は特に少なくなり、家族で簡単にすませる所が多くなった。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	観光名所職員	最近の観光客は、お金を使わずに楽しむ方法を知っており、観光地にお金あまりおいていないと思われる。
	洋食食堂	事業所向けの弁当を扱っているが、最近他地域のお弁当屋さんが進出してきた。飲食業界もボーダーのない時代に突入した感じがする。
	住宅販売会社	展示場来場者から今後の不安についての話をよく聞く。
	ドライブイン	首都圏から1時間弱の距離にあるため、宿泊せずに日帰りをする旅行者が多く、旅館・ホテル等は影響を受けている。
企業関連	製造業（窯業・土石製品）	大型電気店の開店セール時は客が多かったが、売れたものは激安品で、その他の商品は人数の割に売れていなかった。身近な企業の合併等が多く経営基盤作りの継続中で、会社自体はまだ持ち直していない。
	製造業（電気機械器具）	購買動向として、本当に必要なものと趣味にはお金を使っているように思う。
	非製造業（住宅設備施工業）	建設業から転職している人がでてきている。
	非製造業（輸送業）	小売店では必要最小限の購買動向を感じる。顧客からも仕事がなく困るという話を多く聞き、見積りを提出してもスムーズに受注できない。
	非製造業（金融業）	神栖町のヒ素問題によって、町のイメージダウンや地価の下落が懸念される。
非製造業（保険業）	個人の国内旅行や風呂・流し台・トイレなどのリフォームが目につく。	
雇用関連	人材派遣業	各社の業績発表を見ると、経常益増のニュースが多いが、周りの会社はそのような状態でない。
	民間職業紹介業	雇用形態の変化に伴う人材派遣は今後もかなり増加すると思われるが、企業活動の低迷に影響を受ける。
	公共職業安定所	グループ企業合併、株式譲渡による社名変更の話が続き、企業再編の動きは続いている。来春新卒者の採用意向にも慎重さが目立つ。
	雇用相談員	神栖町のヒ素問題で住宅建設が一時中断されていることから、建設業・小売業に若干影響が出ているようである。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	スーパー	特売品のなかの目玉といわれている商品の単価が減少している傾向が大きくなってきた。
	スーパー	4月末に発泡酒増税の影響による特需があった。
	スーパー	競合店のチラシを見ると、低価格の売値が目立ってきた。
	家電販売店	一つの商品を購入するのに、数店舗見てから購入する客が減っているような感じがする。
	自動車販売店	「ボーナスが支給されても社会保険料の徴収率アップにより手取りが減ってショックだ。」という声が聞かれる。
	農産物直売所	野菜類の価格が下落している。
	ガソリンスタンド	私立の学校で、授業料の滞納により、2年間に7名が転校している。不景気が子供の教育にまで影響している。
	洋食食堂	NYダウの続伸などにより、外国人投資家の買いが日本株に広がり、結果として日本株が上昇しているようであるが、日本の景気や企業業績を考えると、このまま一本調子で上昇するのは困難であると思われる。
	洋食食堂	自分の価値にあったものであれば、多少値段が高くても出費しているように思われる。
	寿司店	大型店がどんどん出来ており、商店街の空洞化が進んでいる。
	和食食堂	行事関連がある時には外食をするが、その他の時には、外食を控えている傾向にある。また、アルコールの注文が減っている。
	都市型ホテル	婚礼列席者の減少がみられる。レストランにおいては、低価格高品質でないお客が集まらない。客は、ホテルとしてのブランドよりも価格面を重視している。
	旅行代理店	県南地域の物販については、品揃えも多く、顧客のニーズに応えられる千葉県北部に行っている。
	タクシー運転手	夜の飲食店街に活気がない。
	タクシー運転手	夜8時から10時頃は家族がマイカーで迎えにくる人が多い。
	タクシー運転手	以前は、30分ぐらいバスの待ち時間があるとタクシーを利用してくれたが、今は1時間待ってもタクシーよりバスを利用する傾向にある。
	タクシー運転手	夜の飲食店等の利用が減少している。
	タクシー運転手	飲酒運転の罰則強化でタクシー業界は良くなると思ったが、自動車運転代行業の参入で、タクシー業界はこれまで以上に厳しくなっている。
	理・美容店	美容関係は、付加価値（客を生き生きさせる・心地よくさせる）に目をむけ始めており、料金（化粧品等店販品も含む）も低料金と高料金に二分化している。
	建築設計事務所	中小企業が店じまいになったり、競売にかけられている土地建物が見受けられる。
企業関連	農業関係者	飲酒運転取締強化により居酒屋へ行く人が減っている。
	製造業（食品）	コンビニや大型スーパーの新規出店や、営業時間延長などをして、全体の売上げは変わらないため、パイを分け合っている。
	製造業（コンクリート製造業）	建設業界は、夏場に関しては受注が少ない。

分野	業種・職種	特徴的意見
企業関連	非製造業（建設業）	周りの人達の話や聞くと、いつ会社をクビにかかるかわからないので、節約しているという話を聞く。
	非製造業（建設業）	排ガス対策関係の生産工場が忙しくなっている。
	非製造業（建設業）	長期にわたる建設不況の中で、特に建築大工が住宅工事をプレハブメーカーに取られ廃業や転職する事態が続出している。
	非製造業（不動産業）	購買力のある人となない人、高級品と安い商品など二極化の傾向が目立つ。
	非製造業（金融業）	デパート・大型量販店の売上げ減少が続いている。
雇用関連	人材派遣業	原料供給先より大幅な値上げを要求され、それを拒んだために供給をストップされ、やむなく工場を閉めた顧客がある。
	求人広告	最近の広告は、消費者が2、3割引には慣れてしまったためか、半額5割引というものも見受けられる。求人に関しては、一つの広告に対して平均5件位の問い合わせがある。
	公共職業安定所	景気は回復しているものの、雇用面は依然として厳しい。
	学校就業関係者	求人の中かで、人材派遣会社が目立ってきている。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	ショッピング・センター内の宝飾店が閉店の予定である。
	スーパー	会社の倒産並びにリストラで退社した人が多くなっている。店の外にあるたばこの自動販売機が盗まれた
	コンビニエンスストア	売手市場から買手市場へ消費動向が変化している。
	家電販売店	一定の売上確保が困難で、日によって売上げにバラツキが目立つ。
	ガソリンスタンド	7月に再オープンするビルにおいて、4階のフロアの大部分がデフレの代名詞である100円ショップになるとのことである。
	和食食堂	昨年より道路交通取締りが厳しくなり、食べる前に一杯ということはなくなった。
	居酒屋	とあるスーパーの話では、10万円売って利益が2,000円だと言っていた。
	都市型ホテル	道路交通法の改正などでどうしても客の酒量が少なくなっている。また、送迎運賃の負担増などが経営を圧迫している。
	旅行代理店	申込内容を見ると、価格第一（格安なもの）の傾向が続いている。
	タクシー運転手	客から景気に関して良い話が聞かれない。
	タクシー運転手	地元のタクシー会社が1社減り、稼働状況が良くなるかと思っただ、良かったのは1か月だけで、元の状況に戻ってしまった。他地域からの参入があったためと思われる。
	ドライブイン	若い家族連れが多く、バスツアーが少なくなっている。
	ゴルフ場	名門・高級ゴルフコースも料金の引き下げに走っている。
	理・美容店	身近で詐欺の被害にあった話を聞く。
	クリーニング店	安売りのクリーニング店が進出するという話を聞く。近くにできたら客数が減少するのではないかと不安になる。
	建築設計事務所	リフォーム・介護住宅という看板をかかげて、食品・物品等さまざまな業者が納品し、お金がもらえない詐欺事件が発生した。電化製品や食料品を大量に仕入れるなど不自然な点が多々あったと思うが、仕事が減っていることによって発生したものといえるのではないかと。
企業関連	製造業（食品）	自宅を新築、リフォームする従業員がちらほらみられる。
	製造業（木材業）	受注件数を多く抱えている企業と少ない企業の差がはっきりと出てきているように思われる。
	製造業（印刷業）	奉仕団体に所属しているが、奉仕どころではないと退会する人が増えている。
	製造業（石材業）	仕事のエリアを関東のみでなく東北にも伸ばしている。
	製造業（石材業）	周りは不景気と言っているが、日本は他の国に比べればまだまだ裕福である。現在の環境に感謝する気持ちがなければ、景気は良くなると思う。
	非製造業（建設業）	郊外の大型店に押され、市街地の商店の閉鎖が増加している。また、工業団地の中枢企業が撤退した。
	非製造業（金融業）	資金繰り悪化による事業所の倒産が断続的に続いている。 建売物件では、立地条件が良いところは売れている。
非製造業（広告業）	将来への危機感の対策として、専門特化する、新規企画を立てるなど具体的な行動に移しているところが増えている。	
雇用関連	人材派遣業	4月より新しい会社との取引が始まったが、業績のよくない会社との取引がなくなったところもある。